



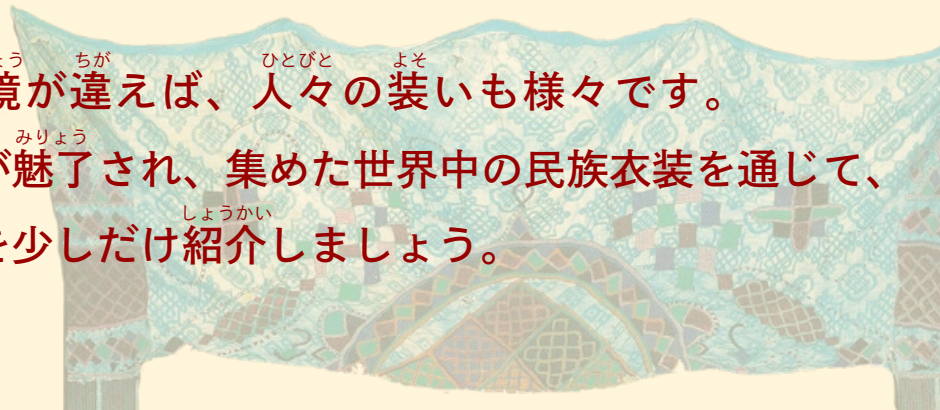
どう着る？

世界の民族衣装

costume

暮らし環境が違えば、人々の装いも様々です。

芹沢銈介が魅了され、集めた世界中の民族衣装を通じて、
その様子を少しだけ紹介しましょう。

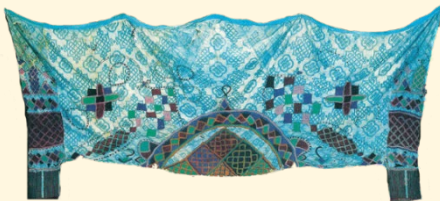


Q

①～⑤の各国の衣装は、どのように着用するのでしょうか？ A～E のうち
ふさわしいものを選んでみましょう！

①

ナイジェリア



②

日本



④

インドネシア



⑤

アメリカ



③

アフガニスタン

- A. 体に巻きつける【腰巻】
 B. 着る【上着】
 C. 履く【ズボン】
 D. 羽織る【祝い着】
 E. 頭に被る【コート】

答え▶▶▶



C. 履く

ナイジェリア北部の民族・ハウサ人が履いたズボンです。全面に組紐や幾何学の美しい模様が刺繍されています。ズボンの両端に筒状の裾があり、そこに足を通し、幅広のウエストをベルトで縛ると、股下部分が提灯のような形になります。この部分に空気がたまるため、寒暖の差が激しいこの地においては、防寒・防暑の両面で役立ちます。

D. 羽織る



「万祝」は大漁を祝う晴れ着です。青森～静岡の太平洋沿岸で昭和30年頃まで盛んに作られました。袖に「大漁」の文字が入るのは三陸地方の特徴で、この地域では「カンバン」とも呼ばれます。前身頃上部には「細浦港」の文字があり、大船渡湾で着用されたものと分かります。漁師たちは、この祝い着で神社を参拝し、大漁の御礼と安全祈願をしたのです。



そで
袖を後ろへ

ふつうのコートと違う！両袖の肘部分が
赤いヒモで結ばれているのはなぜ…？
それは、「着る」のではなく「被る」
コートだから。不要な袖は後ろに回し、
動かないようヒモで結びました。

BACK



E. 頭に被る^{かぶ}

ロングコートに見えますが、頭から被るコートの一種です。長い袖は「飾り袖」で、腕を通さずに背中^{せなか}にまわします。イスラム教の慣習^{かんしゅう}で、女性は顔や髪^{かみ}を見せられないため、外出の時に着用しました。表は大胆な大柄模様、裏地は上品なペイズリー模様。裕福な都市部の女性がまとった、上等な絹^{きぬ}の衣装です。

A. 体に巻きつける

伝統的な男性用衣服です。日常的には腰巻^{こしまき}として使い、正装時には肩掛^{かたか}けにもなりました。絣^{かすり}という技法で布を織り、その両側に縞織^{しまおり}物を接ぎ合わせるの^{もの}はティモール島の特徴的^{とくちょうてき}デザイン。この布には絣部分に動物文様があり、神聖^{しんせい}な生き物・ワニや、馬が見られます。





B.着る

アメリカ北中西部の先住遊牧民族・スー族の上着。鹿の皮をなめして縫い合わせたあと、袖や裾に威厳あふれるフリンジ（房）を付けています。また、ビーズをびっしりと敷きつめた緻密な刺繍が、着用者の気高さを一層ひき立てています。上着の材料となる動物の皮は、耐久性と伸縮性があるため、大草原での狩猟生活によく適していました。

ー 集まり寄るものすべて有難く すべてよろし

常にふれ合いて^{よろこ}歡ぶなり ー

芹沢銑介

せりざわ けいすけ

芹沢銑介が集めた衣装コレクションは古今東西さまざま。年代や性別、地域に関係なく、芹沢自身の厳しい目で「よい」と見定めた品が集まりました。芹沢はこうした品々を室内に飾って「目で楽しむ」ほか、誕生日には晴れ着として「着て楽しむ」こともあったようです。

- * 右の^{しば}絞り^ぞ染めスカートも、芹沢のもとに集まってきたもののひとつ。長男の長介が、父・銑介の土産にと、パリで買い求めたものです。



ラファイア製絞り染めスカート（コートジボワール）